

有島記念館

題字は有島武郎令弟・里見弴(作家)の揮毫

ARISHIMA TAKEO MEMORIAL MUSEUM

も く じ

- ① 平成28年度の話題
- ③ 平成28年度活動報告
- ⑦ 平成28年度資料収蔵報告
- ⑧ 学芸部門活動報告
出版物等の発行
オリジナルグッズの制作
平成28年度職員動向

平成28年度の話題

○「前川茂利写真展」の開催

当館は、ニセコ町唯一の博物館施設として、郷土の歴史を紹介する使命を持っています。今年度はニセコ町をはじめとした後志管内のまちの移り変わりを紹介するために、「前川茂利写真展 ニセコのくらし しりべしのくらし 羊蹄山ろくのくらし」を開催しました。

この企画展で紹介した作品を撮影した前川茂利「1930(昭和5)年—1999(平成11)年」は、開拓農家の二代目として小沢村(現・共和町小沢)に生まれました。小沢郵便局に外務員として勤務しながら、1948(昭和23)年からは、樺太などの引揚者や戦災被害者など農業未経験者が入植した、いわゆる「戦後開拓地」である小沢開拓地の人々のくらしを撮影しはじめます。撮影対象はそこに

留まらず、後志(しりべし)の山村や漁村にも及び、それらの地域の人々の営みと風土とを、昭和20年代から高度経済成長期を経て平成期に至るまで記録しつづけた写真家です。

前川は、有島記念館があるニセコ(狩太)町にも多く足を運んでいます。そして、家族総出で行われていた機械化以前の農作業風景や今では失われたニセコ町市街地の光景などつぶさに撮影して、作品に残しています。

前川の没後の2013(平成25)年、数万点に及ぶ作品のネガやプリントなどは、ご遺族により共和町・かし古里館に寄贈され、共和町教育委員会の手によって調査・研究が進められています。そして、これらの前川資料は写真作品としての価値に加え、共和町をはじめとした後志全域における貴重な郷土資料としての価値も有していることがあきらかになりつつあります。

この企画展では、共和町・かし古里館が所蔵する前川作品の原版から、写真集や個展などで未発表のニセコ町内で撮影された作品を中心に、羊蹄山ろくや後志の山漁村を写し取った作品もあわせて展示しました。それらの作品を通して、後志各地域の街並みの変遷やそこで暮らした人々の営みなどを紹介するとともに、後志における前川の活動の一端について



菊地慶一氏講演会



磯崎亜矢子氏講演会

も知っていたことができました。また、会期中には被写体となった方やニセコ町の今は失われた風景を懐かしむ方などが来館されて、作品に関する情報も収集することができました。

関連事業として、文筆家の菊地慶一氏をお招きし、「なぜ地域の歴史を掘り起こすのか 北海道における戦後開拓、空襲、捕鯨の歴史を中心に」と題して、北海道の戦後開拓の歴史などについてご紹介い

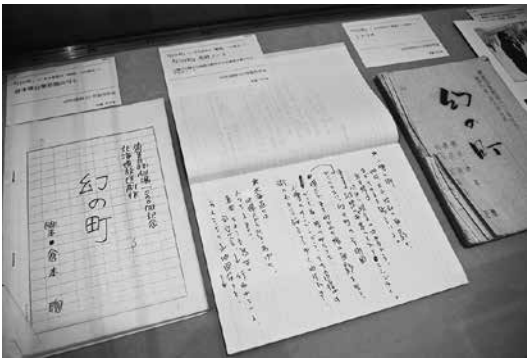
いただきました(7月17日)。また、前川作品の調査・研究を進めている西村計雄記念美術館・磯崎亜矢子学芸員には、「共和の写真家・前川茂利」と題して、前川のあゆみや作品などについてご講演いただきました(8月6日)。

また、この企画展開催に際してデジタル化した作品データは、前川茂利夫人・ハツエ氏やご家族、原版所蔵先のかかし古里館を管轄している共和町教育委員会のご理解により当館に寄贈いただきました。

当館では、今後もニセコ町を中心とした前川の活動について調査を進めるほか、その成果を踏まえた企画展なども定期的に開催していく予定です。前川家のみなさまに厚く御礼申し上げます。

○「三浦綾子『母』と演出家・守分寿男の仕事」の開催

北海道・旭川を拠点に、キリスト者と



守分寿男代表作『幻の町』の関連資料

しての信仰を投影した『氷点』や『塩狩峠』などの作品を生み出した小説家・三浦綾子「1922(大正11)年～1999(平成11)年」。1992(平成4)年に執筆した『母』は、有島記念館がある後志地域ゆかりの小説家・小林多喜二「1903(明治36)年～1933(昭和8)年」の母親である小林セキの語り口で、多喜二の生涯、そしてセキ自身の波乱に富んだあゆみを語る作品です。

守分寿男「1934(昭和9)年～2010(平成22)年」は、北海道においてテレビドラマ草創期から演出家として活動してきました。守分は、北海道でしか制作できないドラマ作品「北のドラマ」とは何かと自らに問い続け、その時代の社会的状況にも目を向けながら作品を生み出し、全国的に高い評価を得ています。この北の大地に根差して作品を創り続けた2人の交友は、1969(昭和44)年に、三浦の原作を基に、守分が演出を手掛けたテレビドラマ『羽音』(北海道放送(以下「HBC」)制作)に始まります。その後も両者の間には本展で紹介している微笑ましいエピソードや、三浦の追悼番組に守分が出演するなどの関係が続きました。

2008(平成20)年、守分はライフワークとしていた取り組んでいた小林多喜二の生涯に迫るドキュメンタリー作品『いのちの記憶 小林多喜二・二十九年の人生』(HBC制作)を発表します。このドキュメンタリーには、関係者のインタビューや資料映像などとともに、三浦の『母』を題材とした一人芝居を俳優・河東ケイが演じたシーンが要所で挿入さ

れ、多喜二をひたむきに生きた優しい青年として多角的に紹介しています。同作品は、惜しくも守分の遺作となりましたが、平成20年度文化庁芸術祭テレビ部門大賞を受賞して高い評価を得ました。

守分の作品は、代表作である『幻の町』(1976年)のほか、『わかれ』(1967年)、『あかねの空』(1980年)、『コスモス』(1981年)、『悠々たる天』(1984年)などが後志地域を舞台としており(すべてHBC制作)、後志ゆかりの演出家といっても過言ではありません。

本展では、三浦綾子の作品『母』と、その『母』などの三浦作品の映像化に携わり、後志にも深いゆかりのある演出家・守分寿男に焦点をあて紹介します。

『母』を紹介する展示については、旭川・三浦綾子記念文学館から提供いただいた巡回展用展示パネルを全面的に改訂して展示しました。

続く、守分寿男の仕事に焦点を当てた部分に関しては、2012年から有志により、守分寿男旧蔵資料整理作業が続けられており、守分家の協力を得て整理作業が終了した一部資料を展示し、北海道映像史において重要な位置を占める守分の仕事を振り返りました。

○イラストレーター・藤倉英幸氏からの作品一括寄贈

札幌在住のイラストレーター・藤倉英幸氏から、貼り絵やポスターなど約千点の作品の寄贈の申し出を受け、平成28年度から受入準備に着手しています。

藤倉氏は、1948(昭和23)年、後志管内岩内町生まれ。北海道岩内高校卒業

後、製菓会社などに勤めながらイラストレーションを独習。1974(昭和49)年に独立後は、ポスター、カレンダー、パッケージなどのデザインを幅広く手がける。70年代後半から切り絵を、80年代後半から貼り絵によって風景画を制作し、それらの作品はJR北海道車内誌や商品パッケージなどで北海道民に広く知られています。有島記念館では、過去に3回の企画展を開催しているほか、当館ポスターのデザインを手掛けるなどゆかりがあります。

当館が顕彰する有島武郎は、大正期に小説家としての活動と並行して、自ら絵筆を握り、自著の装丁や挿絵などを手掛けるイラストレーターとしての活動も行っており、藤倉氏の活動との親和性があります。また、ニセコ町は景観条例の施行などにより風景の保護に積極的な自治体であり、藤倉氏の北海道の風景に対する思いとも共通しています。このような点に加えて、当館が近年推進している美術館機能の強化にもつながることから収蔵させていただくことになりました。平成29年度からは作品等の整理作業を進め、平成30年初頭に整理が終わった作品を公開する受贈記念展を開催する予定です。



藤倉英幸『羊蹄へ続く道』

○有島記念館運営委員会の開催

平成14年度から開催が休止されていた「有島記念館運営委員会」を、委員を刷新して再開しました。委員には、平原一良委員（公益財団法人北海道文学館副理事長）、寺嶋弘道委員（本郷新記念札幌彫刻美術館館長）、佐々木亨委員（北海道大学大学院文学研究科教授）、岡部卓委員（木田金次郎美術館学芸員）、渡邊均委員（ニセコ町校長会会長・ニセコ中学校校長）の4氏に委嘱しました。1回目は2016（平成28）年6月13日、2回目は11月10日に開催され、有島記念館の運営に関する意見交換や提言がなされました。

平成28年度活動報告

1、展示事業

※敬称略

（1）常設展示室

来場者数 11、778人

〔平成28年4月1日～平成29年3月31日〕

（2）特別展示室

有島記念館若手作家展Ⅳ

平成の「生れ出づる悩み」コンテスト
入選者より 駒澤千波展「そのもり」
期間 平成27年12月19日～平成28年6月12日 来場者数 3、684人
（3月31日までの入場者…919人、
4月1日以降の入場者…2、765人）

有島記念館若手作家展Ⅴ

平成の「生れ出づる悩み」コンテスト
入選者より 「石垣渉水彩画の世界」
身近にある風景

期間 平成28年3月12日～6月12日
来場者数 3、223人

（3月31日までの入場者…458人、
4月1日以降の入場者…2、765人）

前川茂利写真展 ニセコのくらしし
りべしのくらし 羊蹄山ろくのくらし
期間 平成28年6月25日～8月21日
来場者数 3、471人

楽しい子どもの美術展

期間 平成28年8月27日～10月10日
来場者数 2、485人

協力 網走市立美術館

第28回有島武郎青少年公募絵画展
期間 平成28年10月29日～11月13日



青少年公募絵画展

来場者数 714人

応募点数 266点

入賞・入選点数 108点

審査員 審査委員長／佐藤友哉（札幌芸術の森美術館館長）、審査員／佐藤光雄氏（全道展会員）、羽山雅倫（全道展会員）、西村明美（道展会員）

主催 ニセコ町、北海道新聞社

主管 ニセコ町教育委員会

※小ギャラリーも使用

有島武郎賞

「日常」福地 花凜

（札幌大谷高等学校1年）



有島武郎賞「日常」福地花凜

三浦綾子「母」と

演出家・守分寿男の仕事

期間 平成29年1月28日～10月9日
来場者数 634人

（3月31日までの入場者…634人）
※3月7日より小ギャラリーにて展示

有島記念館若手作家展6

「カトウタツヤ展 1500CC」

期間 平成28年3月18日～7月14日

来場者数 174人

（3月31日までの入場者174人）

（3）常設展示室内小部屋（2階）

しりべしミュージアムロード共同展
「いろとかたちのシンフォニー」

有島一族と音楽

期間 平成28年7月16日～8月28日
来場者数 2、772人

（4）小ギャラリー

北海道新幹線開業記念

大鉄道写真展 ニセコ展

期間 平成28年6月25日～10月10日
来場者数 6、176人



大鉄道写真展

(5) 巡回展(企画協力)

「チャリティ展 夕張市美術館コレク

ション 炭都・夕張の美術遺産」

期間 平成28年10月8日～10月30日

会場 JR TOWER プラニスホール

(札幌市)

主催 札幌駅総合開発株式会社

北海道新聞社

内容 夕張市美術館旧蔵作品を活用し

ての巡回企画。岩内町・木田金

次郎美術館と当館が幹事館。

特別展「藤倉英幸 貼り絵・北海道63

景 静かな風を聴きながら」

期間 平成28年10月29日～12月25日

会場 市立小樽美術館

主催 市立小樽美術館ほか

内容 作家所蔵の作品「北海道63景」

等を活用しての巡回企画。当館

が幹事館。

展示事業来場者(延べ人数)

19、184人

※平成28年度のみ



2、普及事業

※敬称略

有島地区の初夏の草花観察と

地域遺産を歩く

日時 平成28年5月28日 13時開始

解説 植物担当・持田誠

(浦幌町立博物館学芸員)

地域遺産担当・伊藤大介

(有島記念館主任学芸員)

参加者数 14名(定員10名)

有島記念館映像上映会

映画「男はつらいよ」

日時 平成28年6月4日 13時開始

解説 伊藤大介

(有島記念館主任学芸員)

参加者数 21名

星座忌

日時 平成28年6月12日 14時開始

参加者数 83名



星座忌コンサート なつかしい風景

日時 平成28年6月12日

14時10分開演

出演 札幌コダーイ合唱団

指揮 中村隆夫 ピアノ 影山裕子

参加者数 102名



「前川茂利写真展」担当学芸員による

ギャラリートーク

日時 平成28年6月25日 13時開始

講師 伊藤大介

(有島記念館主任学芸員)

参加者数 16名

ミュージアム・コンサート

日時 平成28年7月16日 14時開演

出演 コンセール・アミ

〔佐藤貢(テノール)

吉田聖子(クラリネット)

丸山みゆき(ヴァイオリン)

塚越由り映(ピアノ)

柴瑞穂(ピアノ)〕

参加者数 43名

主催 倶知安町・小川原脩記念美術館

ニセコ倉庫邑関連事業

「旧新得機関区転車台説明会」

日時 平成28年7月16日 11時開始

講師 伊藤大介

(有島記念館主任学芸員)

参加者数 8人

菊地慶一講演会「なぜ地域の歴史を掘り起こすのか 北海道における戦後開拓、空襲、捕鯨の歴史を中心に」

日時 平成28年7月17日 13時開始

講師 菊地慶一(文筆家)

参加者数 18名

永田斉子リユートソロコンサート

夏の夜の夢 シェイクスピア時代のリユート音楽

日時 平成28年7月23日 13時開演

出演 永田斉子(リユート奏者)

参加者数 81名

講演会「共和の写真家・前川茂利」

日時 平成28年8月6日 13時開始

講師 磯崎垂矢子

(西村計雄記念美術館学芸員)

参加者数 30名

若手作家美術講座

「アートにふれよう」

日時 平成28年8月7日 13時開始

講師 松崎祐哉

(画家・キャラクターデザイナー)

参加者数 12名(定員10名)

「前川茂利写真展」担当学芸員による
ギャラリートーク

日時 平成28年8月20日 13時開始
講師 伊藤大介

(有島記念館主任学芸員)
参加者数 16名



能登谷安紀子ヴァイオリン・リサイタル
日時 平成28年8月21日 14時開演
出演 能登谷安紀子(ヴァイオリン)
友清祐子(ピアノ)
参加者数 82名

後志出身の音楽家を招いてⅡ
ギターデュオ「Enui」コンサート
日時 平成28年9月11日 13時開演
出演 三谷幸久(クラシックギター)
三谷良典(アコースティックギター)
参加者数 150名

野瀬栄進 ジャズピアノコンサート
日時 平成28年9月16日 18時開演
出演 野瀬栄進(ピアノ)
参加者数 75名

北のやまねこ座×侘び助プレゼンツ
「有島武郎 童話の世界」

日時 平成28年10月10日 11時開演
出演 naru(語り)、萬田陽子(語り)、
上田たけし(ギター)

参加者数 54名
共催事業 北のやまねこ座、侘び助

文化遺産ツアー

「ニセコ町西富遺跡見学会」

日時 平成28年11月3日9時有島記念
館集合・9時10分ニセコ町役場前集合
講師 高倉純(北海道大学埋蔵文化財
調査センター) 鈴木建治(北
海道大学国際本部)
参加者数 15名(定員10名)



第28回有島武郎青少年公募絵画展
表彰式
日時 平成28年11月5日 13時開始
参加者数 174名



第28回有島武郎青少年公募絵画展
講評会
日時 平成28年11月5日
13時30分開始
講評 羽山雅倫(画家)
参加者数 174名



羽山雅倫氏

朗読と音楽の調べ
日時 平成29年2月26日 13時開演
出演 安藤千鶴子(音声表現講師・元
北海道放送アナウンサー)
あらひろこ(カンテレ奏者)

参加者 66名



安藤千鶴子氏



あらひろこ氏

守分寿男作品上映会参考上映「蟹工船」
日時 平成29年3月5日 10時開始
解説 伊藤大介
(有島記念館主任学芸員)
参加者 11名

守分寿男作品上映会

「いのちの記憶」上映会

日時 平成29年3月5日 13時開始

解説 定居孝行(映像編集者)

参加者 48名

第17回宮山登山会

日時 平成28年3月11日 9時30開始

場所 宮山など有島地区周辺

参加者 12名

3、閲覧室(ブックカフェ)事業

(1) 閲覧室(ブックカフェ)の利用者数

2、133人(カフェ利用のみ)

(2) ブックカフェの文化利用事業

(貸館事業)

母と子のためのピアノワークショップ

日時 平成28年6月21日

参加者 4名

ピアノライブ ピアノの音を楽しもう

日時 平成28年8月31日

参加者 8名

ピアノライブ ピアノの音を楽しもう

日時 平成28年9月29日

参加者 5名

ピアノライブ ピアノの音を楽しもう

日時 平成28年10月27日

参加者 7名

土香る会読書会(第1回)

日時 平成28年11月19日

参加者 8名

ピアノライブ ピアノの音を楽しもう

日時 平成28年11月24日

参加者 2名

土香る会読書会(第2回)

日時 平成28年12月10日

参加者 8名

ピアノライブ ピアノの音を楽しもう

日時 平成28年12月22日

参加者 15名

土香る会読書会(第3回)

日時 平成29年1月21日

参加者 5名

ピアノライブ

日時 平成29年1月26日

参加者 11名

土香る会読書会(第4回)

日時 平成29年2月18日

参加者 8名

ピアノライブ

日時 平成29年2月23日

参加者 6名

ブックカフェの文化利用事業

(貸館事業)の利用者数

87人(カフェ利用のみ)

4、有島記念公園事業

開館日及び開館時間における目測概算

数値利用者

15、163人

外部協力

トークイベント

「藤倉英幸と語る」北海道を旅して」

日時 平成28年10月29日 14時開始

主催 市立小樽美術館

会場 市立小樽美術館1階研修室

講師 藤倉英幸(イラストレーター)

伊藤大介

(有島記念館主任学芸員)

「生れ出づる悩み」

100年へ有島武郎と木田金次郎

日時 平成28年11月4日、18日、12月

2日、16日 各日13時開始

主催 道新文化センター小樽教室

会場 道新文化センター小樽教室

講師 伊藤大介

(有島記念館主任学芸員)

「有島武郎・木田金次郎プロジェクト」

の一環として協力

※11月分を担当。12月分は木田金次郎

美術館学芸員・岡部卓が担当。

平成28年度有島記念館各種事業延べ人

数

52、354人

※敬称略



主催普及事業参加者(延べ人数)
2、131人



5、マスコミにおける紹介

(1) 新聞報道

- 「後志5館巡ろう新リーフレット 作家同士の縁に焦点」
平成28年4月14日 北海道新聞朝刊
〔小樽・後志〕
- 「有島 知名度向上へ始動 シンポなどで魅力PR プロジェクト初の懇談会」
平成28年5月13日 北海道新聞朝刊
〔小樽・後志〕
- 「小説ゆかりの地巡って 有島記念館 地域遺産 地図に」
平成28年5月13日 北海道新聞朝刊
〔小樽・後志〕
- 「有島」と「木田」の魅力発信へ 再評価プロジェクト 始動記念パーティー」
平成28年5月14日 読売新聞朝刊
- 「草花と歴史遺産 有島地区再発見 記念館が見学会」
平成28年5月29日 北海道新聞
- 「有島の世界 香るコーヒー」
記念館内カフェ 3種類の豆発売」
平成28年5月31日 北海道新聞朝刊
〔小樽・後志〕
- 「12日、有島記念館でコンサート」
平成28年6月8日 北海道新聞
〔小樽・後志〕
- 「光を見に行く 格差の時代 武郎とう読む ニセコ町 有島記念館」
平成28年6月10日 朝日新聞朝刊
- 「土の香の会、本年度再始動 有島記念館の支援組織 人材確保にめど 若返り図る」
平成28年6月14日 北海道新聞朝刊
- 「前川茂利さん 後志の写真展 あすから有島記念館で」

- 平成28年6月24日 北海道新聞朝刊
〔小樽・後志〕
- 「今日の話題 有島と木田」
平成28年6月25日 北海道新聞朝刊
〔全道版〕
- 「有島記念館ではルネッサンス音楽」
平成28年7月21日 北海道新聞朝刊
〔小樽・後志〕
- 「ひと ニセコ発 有島記念館の学芸員 伊藤大介さん(37)」
平成28年8月9日 北海道新聞朝刊
〔小樽・後志〕
- 「兄弟ならではの音色をどうぞ 11日 ニセコでギター演奏会」
平成28年9月9日 北海道新聞朝刊
〔小樽・後志〕
- 「夕張の美術遺産に光 あすから札幌で展示会」
平成28年10月7日 北海道新聞朝刊
〔空知〕
- 「有島の「書」クリアファイルに ニセコの記念館 藤倉さんの貼り絵も」
平成28年10月9日 北海道新聞朝刊
〔小樽・後志〕
- 「全作品1千点 有島記念館に寄贈 札幌在住・イラストレーター 藤倉さん」
平成28年12月24日 朝日新聞朝刊
〔全道版〕
- 「有島記念館に貼り絵寄贈へ イラストレーター 藤倉さん 作品1000点」
平成29年1月9日 読売新聞朝刊
〔全道版〕
- 「演出家・守分寿男の情熱伝わる 100点 有島記念館、三浦作品も」
平成29年2月11日 北海道新聞朝刊
〔小樽・後志〕
- 「母」題材に朗読と演奏

ニセコ 有島記念館で催し」
平成29年3月1日 北海道新聞朝刊
〔小樽・後志〕

(2) テレビ

- 「LOVE HOKKAIDO 再発見! ニセコの魅力」
平成28年10月22日 北海道テレビ放送
- 「北海道すたいる ニセコ編」
平成28年10月22日 BS日テレ

(3) ラジオ

- 平成29年2月22日「おはようもぎたて ラジオ便 わがまちのミュージアム」
NHKラジオ第一(北海道)
- 毎月第2、第4水曜日「有島記念館の時間」ラジオニセコ

(4) その他

- 「広報ニセコ」連載「こんにちには有島記念館です」平成28年4、7、11月号

平成28年度資料収蔵報告

寄 贈

- カトウタツヤ氏(札幌市在住)より
アクリル画「UNTITLED」1点
- 山崎英文氏(ニセコ町在住)より
「有島武郎全集(筑摩書房)全15巻」一式
- 折内光洋氏(ニセコ町在住)より
町内飲食店「井筒」マッチ・割箸一式
- 佐藤真一郎氏(札幌市在住)より
有島生馬油彩「越後獅子の少年」1点

関連資料

- 岩内高校同窓会会報「涛聲No30」1点

関連資料

木田金次郎美術館講演会採録集(1996、1997年版)各1点

前川ハツエ氏(共和町)より

前川茂利が撮影した写真のうち、平成28年度に共和町・かかし古里館から有島記念館が借用したネガ原版からデジタル化した作品データ一式

昨年度までに当館主催企画展「有島記念館若手作家展」シリーズで顕彰した作家から、作品の寄贈を受けました。当館では、今後も若手作家から継続して作品購入・収蔵を行う予定です。

山下隆博氏より写真作品1点、駒澤千波氏より日本画作品1点、新見亜矢子氏より油彩作品1点、石垣渉氏より水彩作品1点(これらの作品については次号で紹介いたします)。

この他、全国の文学館、美術館をはじめとする博物館施設や個人から、図録、年報、歌集など多くの資料寄贈を受けました。また当館ブックカフェに多数の書籍の寄贈を受けました。紙幅の都合上、本欄では割愛致しますが、厚く御礼申し上げます。

以上の寄贈・購入資料については、適切な保存処理や資料自体の調査終了後、閲覧・公開に供します(一部、プライバシーに関わる資料に関しては、この限りではありません)。一部資料の詳細は、次号以降の館報「収蔵資料紹介」欄にて紹介する予定です。

学芸部門活動報告

原稿執筆

- 伊藤大介「コレクション 有島記念館」『博物館研究』平成28年7月号、日本博物館協会
- 伊藤大介「コラム 異文化との出会いから―北海道・有島記念館」『文京区立森鷗外記念館NEWS16号』、文京区立森鷗外記念館
- 伊藤大介「イラストレーター・藤倉英幸さんの作品等10000点を受贈」『道博協ニュース119号』、北海道博物館協会

講演会

- 藤倉英幸（イラストレーター）、伊藤大介「トークイベント 藤倉英幸と語る北海道を旅して」
- 主催 市立小樽美術館、平成28年10月29日
- 会場 市立小樽美術館1階研修室
- 伊藤大介「「生れ出づる悩み」100年へ有島武郎と木田金次郎」
- 主催 道新文化センター小樽教室、平成28年11月4日・18日
- 会場 道新文化センター小樽教室
- 伊藤大介「どんざ忌講演会 現代に続く有島と木田の縁」
- 平成28年12月15日、
- 会場 木田金次郎美術館

以上のほか、平成28年度までに受贈・購入した資料に関する調査、企画展実施に関する調査・研究などを実施しました。

出版物等の発行

- 図録「第28回有島武郎青少年公募絵画展」（平成28年10月29日発行）
- 「有島記念館館報第16号」（平成29年3月31日発行）

オリジナルグッズの制作

○オリジナルクリアファイル2種類の制作
有島武郎の筆による「爾自身を知れ」と藤倉英幸の貼り絵作品を使用した「有島に吹く風」の2種類のクリアファイルを作成しました。
各1枚150円（税込み）です。



平成28年度職員動向

着任

係長 伊藤大介（主任学芸員兼任）
〔平成28年4月1日付〕
有島記念館係長を解き、引き続き兼務町民学習係長 樋口範幸
〔平成28年4月1日付〕

退職（定年）

準職員 春日井雅子
〔平成29年3月31日付〕

お詫びと訂正

「有島記念館館報14号」2ページにおいて「市野揚子氏」との記述がありますが、正しくは「揚野市子氏」でした。訂正するとともに、謹んでお詫び申し上げます。



有島記念館

〒048-1531 北海道虻田郡二セコ町字有島57番地
TEL 0136-44-3245 FAX 0136-55-8484
e-mail arishima@town.niseko.lg.jp
ホームページ [有島記念館](http://www.arishima-museum.jp) [検索](#)

開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
休館日 毎週月曜日（5月から9月は無休）、年末年始
駐車場 自家用車用約30台・大型バス用約10台

常設展観覧料

一般500円、高校生100円、年間パスポート（発行日から1年有効）大人800円、高校生200円
10名以上の団体は400円。
中学生以下と二セコ町在住の65歳以上は無料。

交通アクセス

自家用車 札幌、新千歳空港より自家用車で約2時間
JR 二セコ駅より徒歩約30分（約2.5km）、タクシー5分
バス 道南バス[倶知安駅発]「有島記念館前」下車徒歩5分

